

〈株式会社ハミングバード〉 港区民の生命を繋げ -ドローンによる緊急支援物資輸送プロジェクト-

1. 実証実験の概要

災害時におけるドローンを活用した芝浦港南地区～台場地区への物資輸送及び高層建物屋上への物資輸送

2. 実証実験のポイント

震災で孤立してしまった台場地区や高層マンションの高層階に取り残された住人に対し、ドローンを活用することで迅速・安全・確実に医薬品等の緊急支援物資を届けることが可能

3. 実証実験の内容

(1) 内容

ドローンの遠隔操作技術により、芝浦港南地区から台場地区まで東京湾上空を安全に飛行させるための空路の確立

ドローンによる高層建物屋上への物資輸送の安全性の確認

(2) 実施日時

令和6年12月から令和7年3月にかけて、遠隔飛行と高層階物資輸送をそれぞれ2回ずつ実施

(3) 活用する新技術紹介

最新のドローンによる高い安定飛行技術と通信技術による自動遠隔操縦により、都心で初めてのレベル3.5飛行※（芝浦港南地区～台場地区）の実績をつくり、レベル4飛行の実現化を後押し

※レベル3.5飛行：第三者の立入管理措置を行わない状況で、デジタル技術を活用して安全を確認しながら、無人地帯の飛行を実施



I. 採択のポイント

区の現状と課題を的確に捉え、ドローンを用いた垂直及び水平の物資輸送を実施することで、災害時の孤立地域に対して迅速な支援体制の構築を期待

II. 区の支援

- (1) 区関連施設等の実証場所のあっせん
- (2) 国、都への許可申請の支援

〈株式会社NTT DXパートナー〉睡眠に関する知識を学習させた生成AIを用いた睡眠サポート

1. 実証実験の概要

区の課題である住民の健康増進に向けて、生成AIを活用して区有施設に無人の睡眠相談ブースを設置し、より正確かつ効率的、効果的に住民の睡眠課題を解消

有人相談の場合と比較した満足度や利用率、コストなどを検証し、生成AIを活用した睡眠相談の有用性を実証

2. 実証実験のポイント

一般的な生成AIの課題である誤情報や古い情報に基づいた回答を生成してしまう点に対して、専門的な睡眠知識をRAG※構成で学習させることで、より専門性が高く誤情報の少ない睡眠相談を実装

生成AI技術による一人一人に最適なアドバイス回答生成の有用性を実証

3. 実証実験の内容

(1) 内容

港区本庁や港区企業オフィス等に設置し、睡眠相談を気軽にできる環境を整備することで、有人相談と比較した満足度や利用率を分析。AIによる住民や社員の健康増進の可能性をアンケート等により検証を実施

睡眠の悩みを相談すると専門性の高いエビデンスのある情報と具体的な改善アドバイスが生成され回答

(2) 実施日時

令和7年2月頃を想定

(3) 活用する新技術紹介

国内外12名の医師/研究者/専門家による各専門分野の知識を学習させたより専門性の高い独自の生成AI技術 (RAG: 検索拡張生成技術→外部の最新情報等を独自に検索拡張させ、回答の信頼性を高める手法)



I. 採択のポイント

現代社会人の永遠のテーマである睡眠。厚生労働省は、診療科名に新しく「睡眠科」を追加する方針。今回、睡眠に特化した生成AIを用いて、専門的なアドバイスを提供することで、区民の健康福祉につながるサービス提供の可能性を期待

II. 区の支援

区民に対して、睡眠アドバイスを提供する機器の設置する場所の貸出

〈株式会社ポケット・クエリーズ〉ロボットを用いた災害時遠隔トリアージシステム実証実験

1. 実証実験の概要

災害医療における遠隔トリアージができる仕組みづくり

2. 実証実験のポイント

災害医療に関わる医師を現地に派遣することが困難な状況において、遠隔操作ロボットを用いることで、医師が現地にいなくても、トリアージを行える仕組みを検証

3. 実証実験の内容

(1) 内容

被災者役をロボットの遠隔操作で探し出し、発見後、カメラの画面共有と搭載のICT機器による遠隔トリアージを実施

(2) 実施日時

令和6年12月、令和7年3月で2回想定

(3) 活用する新技術紹介

4足歩行ロボットの遠隔操作技術（巡察作業で実証実験済）



I. 採択のポイント

区の地域特性や課題を把握し、遠隔操作ロボットを用いたトリアージ訓練を実証することで、災害時の孤立地域に対する迅速な医療提供体制の構築を期待

II. 区の支援

- (1) 区職員の訓練参加及び会場の貸出
- (2) 医療従事者等のモニター参加及びフィードバック等のあっせん

〈インジェンタ株式会社〉インフラ外観検査AI支援技術検証

1. 実証実験の概要

損傷検知の画像解析における実績技術を活用したインフラ外観検査AI支援の可能性検討

2. 実証実験のポイント

最先端のAI解析技術により、高精度なひび割れ判定を実現させる技術検証を実施しインフラ点検作業のDX化を推進

3. 実証実験の内容

(1) 内容 過去調査でひび割れが確認された区管轄橋りょうのうち現地訪問可能な複数個所に対し両社協業による現地データ取得、既存モデルでの技術検証と改善計画の設計までをスコープと設定。

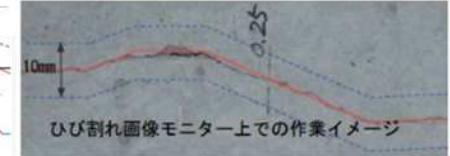
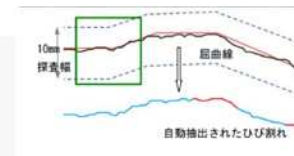
(2) 実施日時 令和6年12月～令和7年2月頃を想定

(3) 活用する新技術紹介

- ・ (右上) KRC社の汎用性と検出精度
点検支援技術性能カタログ BR010042-V0022
- ・ (右下) インジェンタ 画像解析
屋外中古車査定や高速道路で市場実装済



#現場調査知見 #現場データ取得 #精度検証



#プロジェクト管理 #AIモデル設計 #更新計画



I. 採択のポイント

将来的に、画像認識AIを用いた効率的かつ正確な橋りょう点検を実施することで、橋りょう点検費用を軽減しながら、区民により安心安全なインフラ環境を提供できることへの期待

II. 区の支援

- (1) 区管轄の橋りょうリスト及び実証対象の既存点検データ提供
- (2) 現地データ取得における助言、許可支援

〈株式会社ジオクリエイツ〉バーチャル避難訓練と視線感情推定AI

1. 実証実験の概要

区民の防災意識向上に向けたバーチャル避難訓練と視線感情推定AIによるフェーズフリーな避難誘導システムの構築

2. 実証実験のポイント

公共施設の風景をそのままバーチャル空間に取り込むことで、有事の際の避難経路及び火災危険個所をいつでもどこでも正確に把握する事ができ、避難時の混乱を最小限に抑え、安心・安全に避難するためのサポートを実施

3. 実証実験の内容

(1) VRを用いた有事のバーチャル避難訓練



(1)' VRを用いた平時の施設案内



(2) 視線感情推定AIを用いたサインや空間の解析



I. 採択のポイント

VRを用いたバーチャル空間上での避難訓練を実施することで、区民への防災訓練参加の障壁を下げ、どこからでも避難訓練に参加することができ、防災意識の啓発につながることへの期待

II. 区の支援

- (1) バーチャル空間の元データとなる区施設の撮影場所提供
- (2) 区民等への訓練参加の呼びかけや訓練プログラムに関する助言